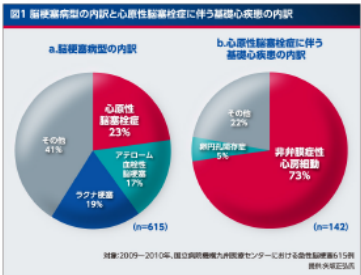


患者の状態・容態をセンシング推測することで医療・看護の効率を図る 基礎的研究（脳卒中患者の外来ケアにおいて） Application of sensing technology for the patients with stroke

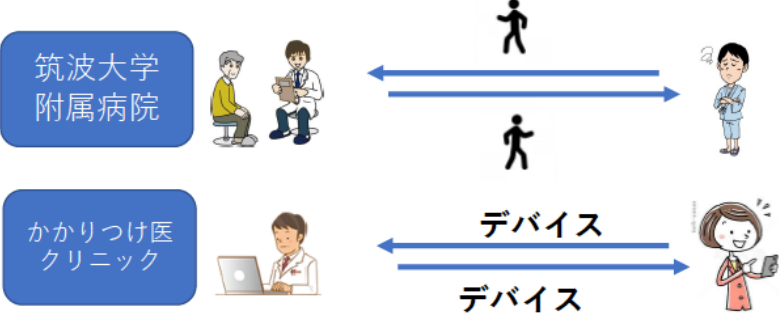
患者の容態をセンシング技術を利用して把握し、適切な医療・介護を効率的に実施することは、超高齢化社会を迎える日本にとって重要であると思われる。脳卒中患者にウェアラブルデバイス(WD)を装着し、不整脈を感知する試みを行い、将来の遠隔診療におけるWDの可能性を検討する。

ウェアラブルデバイスを用いた脳梗塞患者の不整脈検出



- ✓ 脳梗塞患者では23%が心臓からの塞栓
- ✓ しかも心臓から塞栓の原因は心房細動（不整脈）
- ✓ 発作性心房細動がかなりある（通常診察では検出できない）

ウェアラブルデバイスで発作性の心房細動を検出、治療して、脳梗塞患者の脳梗塞再発率を改善する。

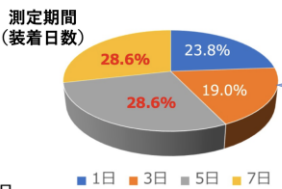


遠隔医療にウェアラブルデバイスを組み合わせる

新しい診療形態の実装試験でもある
医療過疎地には最適！

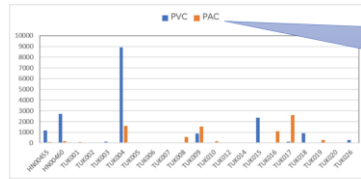
結果 不整脈の解析状況

検査数 (2020年6月以降)
合計で21症例解析
予定では200症例
WDはハートノート (JSR社製) を使用



長時間装着してく
れる患者さんが増
えている

測定期間
・半数以上が5~7日測定で御使用頂けている状況



PVC:心室性不整脈
PAV:心房性不整脈
PAF:発作性心房細動

21症例検査して
心房細動は1症例
1 / 21
5% くらいの検出率？

今回の試みでWDの遠隔医療における有用性が確認され、将来遠隔医療+WDが一つの診療形態になるかもしれない。遠隔医療による問診とWによる検査・診察が組み合わせは可能があると考えられる。

✓ TUK019は6日目でPAFが検知されており、長期測定の効果が期待される結果。

当研究は筑波大学F-MIRAIからの支援を受けています。